

第1回 金沢競馬検討委員会 資料

1 我が国の競馬制度について

(1) 背景

- ・我が国の競馬は、祭典競馬が始まりで、洋式競馬の導入を経て発展し、昭和23年の競馬法の制定により、現在の中央競馬と地方競馬の形となった。
- ・競馬は、開催収入の一部が国や地方の畜産振興、社会福祉等の予算に使われており、公益的な役割を果たしてきている。
また、健全な娯楽を提供するとともに、地域社会における雇用創出、軽種馬産地の形成、馬事文化の継承等、幅広く、経済的にも文化的にも重要な機能を有してきている。

(2) 中央競馬と地方競馬について

① 相違点

区 分	中 央 競 馬	地 方 競 馬	金沢競馬の場合 (H17)
競馬場数	10競馬場	22競馬場 (主催者16団体)	1競馬場 (主催者:石川県、金沢市)
開催回数等	年間36回以内、5回以内/競馬場、8日以内/回、12競走以内/日	年間開催回数:都道府県の区域毎に規定、6日以内/回、12競走以内/日	年間20回 (県営17回、市営3回) 4~5日/回、11競走/日
競馬場の設備	長さ:1,600m以上/周、幅:20m以上、附属設備	長さ:1,000m以上/周、幅:16m以上、附属設備	長さ:1,200m/周、幅:20m、附属設備
勝馬投票券の種類	8種類 (単勝式、複勝式、枠番号連勝複式、馬番号連勝単式・複式、拡大馬番号連勝複式〔ワイド〕、馬番号三連勝単式・複式)	9種類 (中央競馬の8種類+枠番号連勝単式)	9種類
レースの種類	<ul style="list-style-type: none"> ・形態:平地競走と障害競走に分類 ・賞金額でランクをつける条件競走とオープン競走に分類 ・オープン競走の中で価値の高いもの=重賞競走 (例:GI、GIIなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ・形態:平地競走とばんえい競走に分類 ・賞金額で格付け ・競走の中で価値の高いもの=ダートグレード競走 (中央と地方の交流競走) 	<ul style="list-style-type: none"> ・形態:平地競走 ・賞金額で格付け ・競走の中で価値の高いもの=ダートグレード競走、重賞競走、選抜特別競走、JRA条件交流競走、JRA認定競走
売上金の使途	<ul style="list-style-type: none"> ・75%=払戻金 ・10%=国庫納付金 ・15%=開催経費 (剰余金の1/2=国庫納付金) 	<ul style="list-style-type: none"> ・75%=払戻金 ・1%=地方競馬全国協会交付金(1号+2号) ・1%=公営企業金融公庫納付金 ・23%=開催経費(剰余金=一般会計へ繰出し、又は基金積立) 	<ul style="list-style-type: none"> ・75%=払戻金 ・1%=地方競馬全国協会交付金(1号+2号) ・1%=公営企業金融公庫納付金 ・23%=開催経費

② 問題点

- ・競馬が、中央競馬と地方競馬の二重構造となっている。
- ・中央競馬は、資金力が豊富で、情報通信技術を積極的に活用し、全国が商圏となっているが、地方競馬は、資金力が乏しく、商圏についても地域限定型となっている。
- ・中央競馬が土・日を中心に開催していることから、多くの地方競馬では中央競馬との競合開催を避けるため平日開催が多く、集客面で不利となっている。

2 全国の地方競馬の情勢

(1) 現状

- ・不況の長期化やレジャーの多様化、サッカーくじや数字選択方式による宝くじの発売などにより、競馬ファンが減少し、地方競馬の売上が減少傾向となっている。
- ・赤字経営を強いられている多くの主催者は、独自に外部委員を加えた検討委員会や対策委員会などを設置し、振興策や収支の健全化についての検討を行っている。
- ・赤字経営が続く中において、競馬事業から撤退する自治体も増えてきている。

全国の地方競馬の売上げ状況等 (億円、万人、%)

区分\年度	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
売上げ (前年度比)	6,578 (▲7.0)	6,231 (▲5.3)	5,561 (▲10.8)	5,222 (▲6.1)	4,904 (▲6.1)	4,450 (▲9.3)	3,861 (▲13.2)
入場者数 (前年度比)	1,155 (▲5.6)	1,093 (▲5.4)	931 (▲14.8)	858 (▲7.8)	785 (▲8.5)	704 (▲10.3)	612 (▲13.1)

他の公営競技の売上状況等 [上段：売上げ(億円)、下段：入場者数(万人)]

区分\年度	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
中央競馬	38,012 1,224	36,572 1,141	34,348 1,103	32,587 970	31,335 871	30,103 851	29,132 -
競輪	14,498 1,943	13,554 1,752	12,372 1,568	11,710 1,460	10,465 1,290	9,832 1,212	9,151 -
競艇	15,961 2,611	14,706 2,422	13,348 2,281	12,812 2,339	11,991 2,225	10,751 2,150	9,838 -
オート	2,131 573	2,016 517	1,857 470	1,688 447	1,477 400	1,271 388	1,131 -

地方競馬からの撤退・廃止状況

年度	H13	H14	H15	H16
地方競馬主催者	中津競馬(組) 新潟県競馬(組) 宇都宮市	益田市 足利市	上山市	群馬県競馬(組) 栃木県

主催者別単年度収支状況及び平成15年度末基金積立残高

主催者	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度		
	単年度収支差	単年度収支差	単年度収支差	単年度収支差	基金積立残高	累積赤字
	千円	千円	千円	千円	千円	千円
北海道	▲2,156,614	▲2,806,267	▲1,676,569	▲1,337,125	0	▲18,743,752
北海道市営競馬組合	▲322,167	▲895,106	▲401,660	▲346,683	140,640	▲1,853,894
岩手県競馬組合	▲1,227,187	▲2,975,763	▲3,823,525	▲3,922,019	16,786	▲10,474,876
上山市	▲1,724,699	▲503,229	▲853,478	▲1,283,686	=	=
新潟県競馬組合	▲997,810	▲1,358,436	-	-	=	=
栃木県	▲1,355,435	▲1,782,841	▲1,695,475	▲1,967,730	3,786,645	▲4,098,563
宇都宮市	▲105,721	▲104,922	-	-	=	=
足利市	▲373,820	▲232,645	▲178,879	-	=	=
群馬県競馬組合	▲1,318,128	▲956,557	▲841,031	▲678,529	0	▲5,094,050
埼玉県浦和競馬組合	▲462,231	▲1,334,935	451,516	182,965	60,000	▲1,944,029
千葉県競馬組合	▲1,874	▲48,985	177,000	291,228	0	▲21,629
特別区競馬組合	▲920,370	▲1,956,240	186,382	▲736,636	0	0
神奈川県川崎競馬組合	▲1,376,728	▲1,684,645	▲1,734,876	20,355	0	▲3,349,894
石川県	▲226,600	▲103,321	▲57,722	▲402,009	2,464,230	0
金沢市	▲110,985	▲68,187	▲71,790	▲101,296	432,497	0
岐阜県地方競馬組合	▲384,736	▲534,689	▲465,592	▲491,850	555,268	0
愛知県競馬組合	▲920,209	▲365,603	▲120,157	▲416,330	0	▲3,677,424
兵庫県競馬組合	▲294,965	▲224,697	▲928,655	▲207,121	1,575,181	0
益田市	▲188,709	▲163,366	▲365,588	-	-	-
福山市	▲938,989	▲367,653	▲333,240	▲455,223	1,084,973	▲1,611,937
高知県競馬組合	▲1,335,987	▲1,086,631	▲961,148	75,630	199,455	▲6,860,793
佐賀県競馬組合	▲839,378	▲534,432	87,920	▲262,847	924,549	-
荒尾競馬組合	▲284,799	▲432,626	▲258,427	▲217,441	0	▲660,361
中津競馬組合	▲41,687	-	-	-	-	-

(注) 特別区競馬組合は、平成15年度以降公営企業会計を導入し、4月1日で基金条例を廃止。利益剰余金「財政調整積立金」として平成15年度末現在約200億円の内部留保がある。

(2) 課題

- ・地方競馬ファンの減少傾向を食い止めるための対策
- ・中央競馬と地方競馬とが共存共栄できる制度の確立など二重構造の見直し
- ・地方競馬主催者間における連携の強化
- ・地方競馬全国協会交付金のあり方

(3) 課題に対するこれまでの取組状況

区分	国の取組み	主催者団体の取組み	石川県独自の取組み
取組内容	<p>・国では、H13. 8月に「地方競馬のあり方にかかる研究会」を設置し、「地方競馬をめぐる諸問題及び今後の地方競馬の展開方向等の幅広い課題」についての検討が行われ、同年12月に中間報告がとりまとめられた。 (当初から中間報告書のとりまとめのみ)</p> <p>・中間報告書とりまとめ後も、競馬を巡る情勢が大変厳しいことから、H14. 11月に農林水産大臣の諮問機関として「我が国の競馬のあり方にかかる有識者懇談会」が設置され、日本中央競馬会及び地方競馬全国協会の組織の見直しも含め、今後の我が国の競馬のあり方及び経営改善方策についての検討報告書が、H16. 3月に農林水産大臣に提出された。</p> <p>・13年振りに競馬法が一部改正され、H16. 6. 9に法律として公布、H17. 1. 1から施行された。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p><主な改正点></p> <p>1 競馬の実施にかかる規制緩和等</p> <p>① 競馬実施事務委託制度の緩和</p> <p>② 入場料の徴収義務規定の緩和</p> <p>③ 勝馬投票券の電磁的記録による代替</p> <p>④ 重勝式勝馬投票法の導入</p> <p>⑤ 払戻率の見直し</p> <p>⑥ 勝馬投票券の購入等の制限の緩和</p> <p>2 地方競馬における事業収支改善の促進</p> <p>① 地方競馬全国協会への交付金の特例</p> <p>② 競馬連携計画の認定と当該計画に基づいて行う事業に対する支援</p> <p>③ 地方競馬全国協会の行う業務に必要な資金の確保</p> <p>3 ノミ行為の取締まりの強化等</p> <p>4 地方競馬及び競走馬生産に対する支援</p>	<p>・地方競馬問題を重要課題とする都道府県で「地方競馬に関する研究会」を設置し、毎年度、国会議員や国に対して、地方競馬の振興のための各種活動等を行っている。</p> <p><要望活動></p> <p>H16. 6. 29に、8県知事（岩手、栃木、群馬、石川、岐阜、愛知、高知、佐賀）の連名で、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、農林水産大臣等の関係者に「地方競馬の振興」に係る緊急要望を実施</p> <p><要望事項></p> <p>① 日本中央競馬会からの国庫納付金の一部を財源として、地方競馬の支援に充てること。 → 国の対応：国庫納付金減少し、難しい</p> <p>② 日本中央競馬会が、地方競馬主催者へ勝馬投票券の発売を委託する場合の委託料を発売額の10%以上とすること。 → 国の対応：JRAと地全協で話し合い</p> <p>③ 改正競馬法の施行に当たっては、</p> <p>ア 地方競馬全国協会への交付金の交付猶予制度と、</p> <p>イ 認定競馬連携計画に基づく事業に対する補助制度の一体的な適用を可能とすること。 なお、イの補助制度の補助率を3分の2程度とすること。 → 国の対応：改善の自助努力をすべき</p> <p><研究会活動></p> <p>H16. 8. 10に、9道県（北海道、岩手、群馬、栃木、石川、岐阜、愛知、高知、佐賀）が集まり、6月に実施した緊急要望についての意見交換と今後の活動についての協議を実施</p>	<p>・毎年度、全国知事会宛に「国家予算重点要望・政策提案」を提出し、国に対して要望を実施 ただし、H16については、競馬法の改正の関係から、特に県としての要望は未提出</p> <p><H15の「国家予算重点要望・政策提案」></p> <p>地方競馬全国協会への交付金の還付制度の導入について競馬法第23条の2第1号の規定に基づき交付する地方競馬全国協会への交付金について、単年度収支が赤字の場合は還付するなどの制度の見直しを行うこと。</p>

3. 金沢競馬の概要

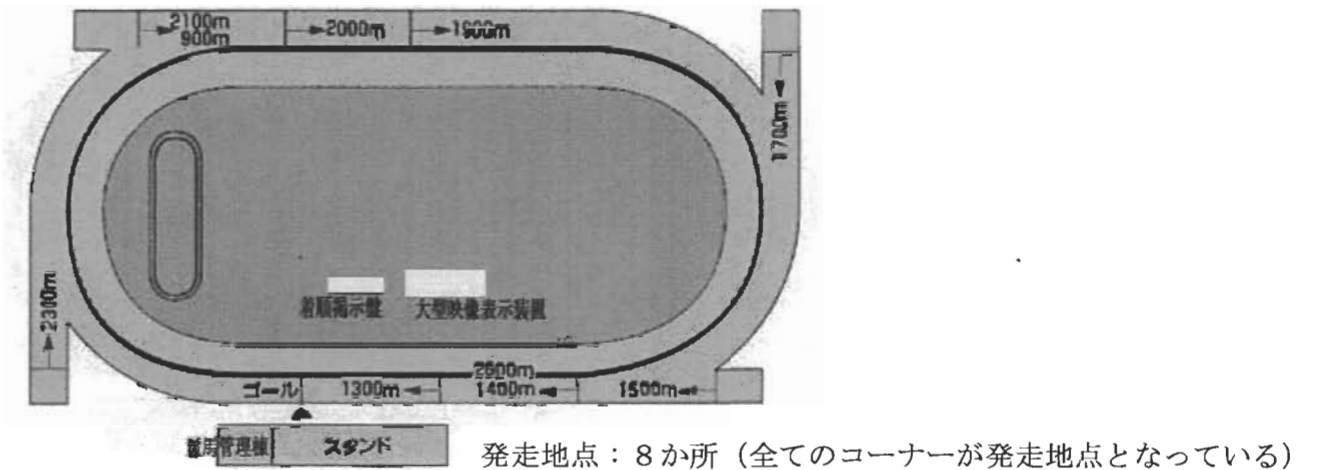
(1) 沿革

- ・ S 2 3 . 9 金沢競馬場（金沢市入江町）で県営競馬を開催
- ・ S 2 9 . 9 金沢市競馬開催指定
- ・ S 4 7 . 1 2 金沢市入江町の旧競馬場を廃止し、金沢市八田町に競馬場（現競馬場）を移転
- ・ S 4 8 . 4 新競馬場で競馬を開催
現在に至る

(2) 施設、組織等

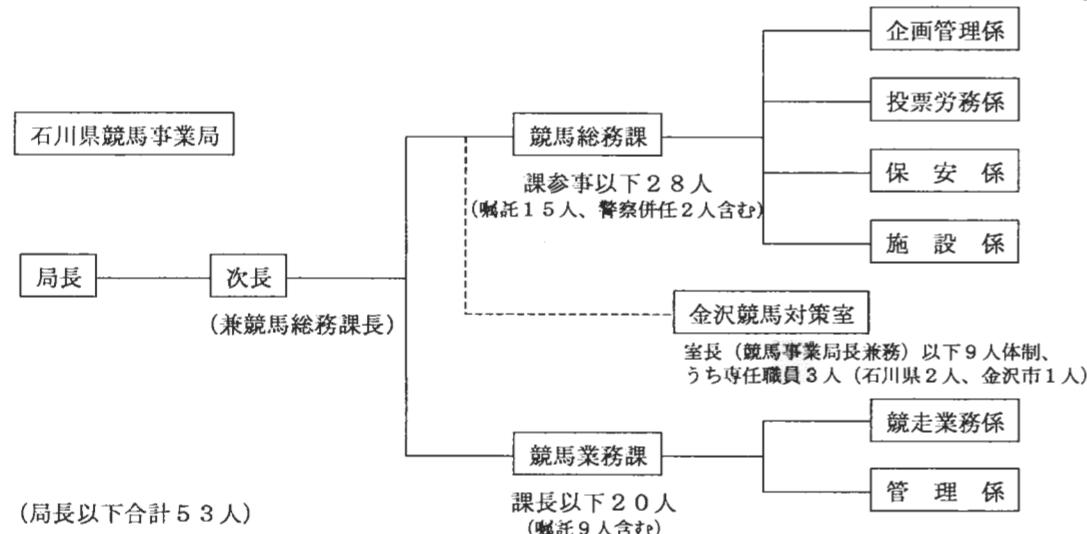
① 施設の概要

敷地面積	440,280㎡（うち県有地 414,368㎡）
スタンド棟	鉄筋コンクリート造3階建（延面積 14,558㎡） 収容人員 15,000人（うち特別観覧席452席） 投票等窓口 194窓（自動販売払戻機70、有人販売127）
馬場	本走路 1周 1,200m、幅20m（右回りダート） 練習用走路 1周 1,080m、幅16m
きゅう舎	きゅう舎 46棟 804馬房（ほか交流きゅう舎 1棟 12馬房） 宿舎 226戸、アパート棟 30戸
管理棟	鉄筋コンクリート造5階建（延面積 4,123㎡）
駐車場	13か所 5,384台収容



② 組織及び競馬関係者数等

競馬事業は、石川県競馬事業局（競馬総務課、競馬業務課）で運営にあたっている。なお、金沢市営においては、石川県競馬事業局職員を金沢市職員に併任し、競馬事業を実施している。なお、組織図及び主な関係者は次のとおりとなっている。



(H17.4.1現在)

従事員	214人
調教師	42人
騎手	27人
きゅう務員	151人
馬主	417人
競走馬	602頭

(3) 競馬事業の実績

① 競馬事業の発売額等の推移

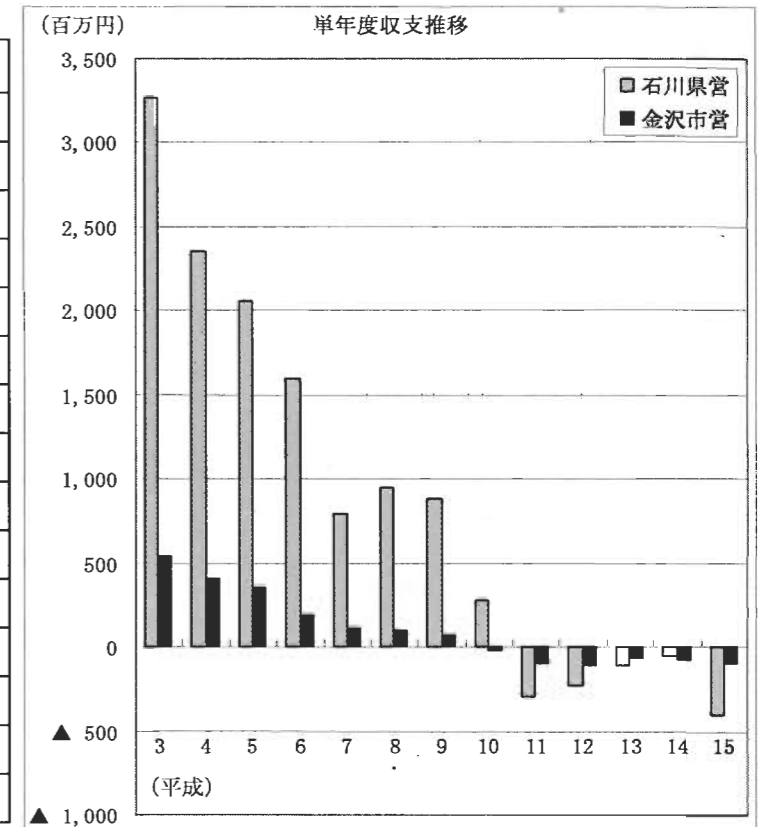
- ・ 金沢競馬場の売得額*は、H3の約446億円をピークに減少を続け、H16では、約121億円となりピーク時の約27%まで落ち込んでいる。
- ・ 石川県営でH11から6年連続、金沢市営でH10から7年連続で単年度収支が赤字となっており、基金を取り崩して対応している。
- ・ H15末の基金残高は、石川県で約24億6千万円、金沢市で約4億3千万円となっている。

※売得額＝発売額－返還金

売得額収支状況の推移 (単位：百万円)

年度 (平成)	石川県営		金沢市営	
	売得額	単年度収支	売得額	単年度収支
3	37,677	3,274	6,954	542
4	37,496	2,350	6,683	410
5	36,210	2,055	6,453	358
6	32,169	1,598	5,599	190
7	29,941	793	5,072	106
8	26,546	944	4,512	101
9	26,459	883	4,360	67
10	23,235	280	4,063	▲ 22
11	20,696	▲ 290	3,527	▲ 101
12	18,887	▲ 227	3,212	▲ 111
13	17,156	▲ 103	2,886	▲ 68
14	15,251	▲ 58	2,463	▲ 72
15	13,375	▲ 402	2,206	▲ 101
16	10,374		1,678	

(注) 16年度の単年度収支については、集計中



② 現状に至ったと考えられる要因

- ・ 金沢競馬においては、これまで振興策や収支の健全化について各種の検討を行い、様々な打開策を講じているが、これといった決定打とはなっていないのが現状である。
- ・ 金沢競馬に限定されたものではなく地方競馬全体にいえることであるが、このような状況に至った背景には、次のような要因が考えられる。

ア 外部的な要因

- ・ バブル崩壊後の長引く景気の低迷により、消費が冷え込んでいる。
- ・ レジャーの多様化（ゲーム、スポーツ、旅行等）により、競馬ファンの減少傾向が続いている。
- ・ 中央競馬・地方競馬という二重構造が存在している。
- ・ 地方競馬ファンの高齢化が進んでいる。
- ・ 地方競馬主催者間における連携が弱い（主催者ごとに競走馬・施設・従業員を保有し、馬券を販売 → 自己完結型）。

イ 内部的な要因

- ・ 売上減少に対応した改善努力（開催経費節減）が限界に近い。
- ・ 売上低下により、資金面で施設改修や運営見直しが難しくなっている。

(4) 経営改善に向けた取組状況

区分	主な経営改善策
平成12年度	<ul style="list-style-type: none"> 大型映像表示装置の設置
経費削減策	<ul style="list-style-type: none"> 職員数等（職員▲3人、従事員▲10人） 開催経費 <ul style="list-style-type: none"> 賞典経費（手当等） 委託費（警備体制の見直し） など
平成13年度	<ul style="list-style-type: none"> 開催曜日の見直し（日・月・火 → 土・日・月） 馬番連勝単式勝馬投票法の実施
経費削減策	<ul style="list-style-type: none"> 職員数等（職員▲6人、従事員▲44人） 開催経費 <ul style="list-style-type: none"> 委託費（公用車運行業務委託等） など
平成14年度	<ul style="list-style-type: none"> ケーブルテレビによる全レースの放映 冠レース（協賛企業・団体のレース）の実施
経費削減策	<ul style="list-style-type: none"> 職員数等（職員1人、従事員▲35人） 開催経費 <ul style="list-style-type: none"> 賞典経費（手当） 借上料（観客・従事員輸送バス等） など
平成15年度	<ul style="list-style-type: none"> 開催曜日の見直し（土・日・月 → 日・月・火） 新賭式の導入（馬番号三連勝式、拡大馬番号二連勝複式） 自動販売机の導入 70台 薄暮レースの実施 （夏場等に通常より時間を繰り下げ、夕暮れにかけて行うレース）
経費削減策	<ul style="list-style-type: none"> 職員数等（従事員▲75人） 開催経費 <ul style="list-style-type: none"> 賞典経費（賞金、手当） 委託費（トータリゼータシステム、清掃委託等） 借上料等（観客・従事員輸送バス等） など

区分	主な経営改善策
平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> 開催規模の見直し 開催回数：（県）18回 → 15回、（市）3回 開催日数：（県）103日 → 86日、（市）18日 → 15日 場間場外発売の見直し より有利な他場との連携（岩手との連携増） 冠レース（個人名のレース）の拡充 メールマガジン「ハッピーくん通信」の開始 優駿5頭のファンクラブの結成
経費削減策	<ul style="list-style-type: none"> 職員数等（職員▲1人、従事員▲8人） 開催経費 <ul style="list-style-type: none"> 賞典経費（賞金、手当） その他、開催規模見直しによる経費削減
平成17年度	<ul style="list-style-type: none"> 開催規模の見直し 開催回数：（県）15回 → 17回、（市）3回 開催日数：（県）86日 → 77日、（市）15日 → 12日 収益性の高い日・祝日開催の確保 インターネットサービスの導入 （金沢競馬全レースの動画映像配信）
経費削減策	<ul style="list-style-type: none"> 職員数等（職員▲6人、従事員▲40人） 開催経費全般にわたる見直し